

タイ・南部経済回廊政策とその行方

東京海上日動火災保険株式会社
(2019年4月26日)

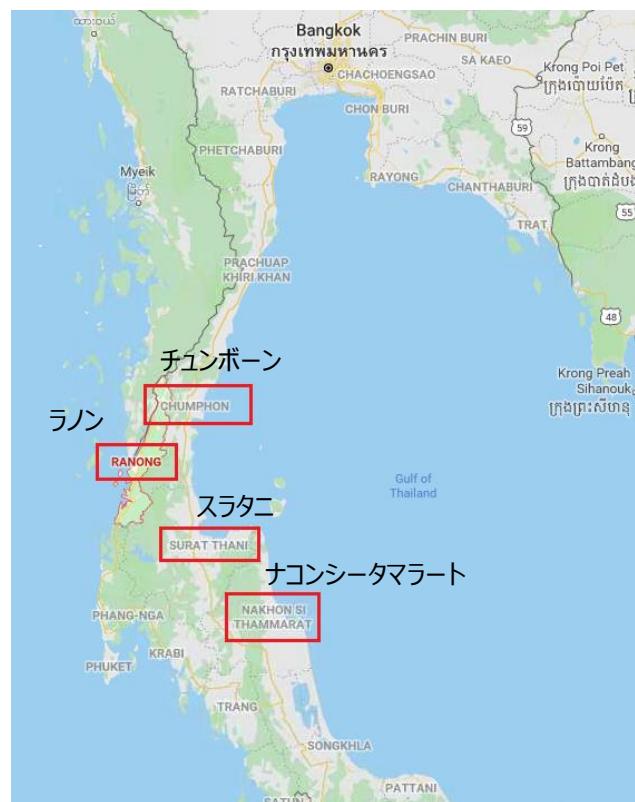
2018年8月、タイ政府は東部経済回廊(EEC)に続く地域開発政策として、「南部経済回廊(SEC)」開発計画を承認しました。同政策による鉄道や港湾などのインフラ開発・観光業と農業の促進に伴い、今後タイからの輸出拡大が大きいに期待されています。今号では南部経済回廊の現状と課題について、お伝えいたします。

1. 南部経済回廊(SEC)政策発案の背景

2017年2月、バンコクで大規模な投資セミナー「オポチュニティ・タイランド」が開催されました。セミナー冒頭、プラユット首相はいわゆる「中所得国の罠」を回避し、先進国入りを目指す国家戦略『タイランド4.0』の詳細を明らかにしました。

これまで農村社会(タイランド1.0)、軽工業中心の工業化(タイランド2.0)、重工業中心の工業化(タイランド3.0)を経て成長してきたタイですが、首都バンコクでは工業化が突出して進む一方で、首都圏と地方の経済格差は拡大の一途を辿っていました。既存の成長路線に固執することで高所得国への移行が困難となる事を危惧したプラユット政権は、新たな産業構造転換を図るべく「地域格差の縮小」を訴えています。その取組の一つとして、バンコク以外の都市で移動閣議を開催し、その都度開催県や都市を中心とした経済政策・インフラ整備計画を公表してきました。

『タイランド4.0』実現の地として、まずバンコク東南部に位置するチョンブリ県、チャチュンサオ県、ラヨン県の3県を挙げ、これを東部経済回廊(EEC)と名付けました。その後、2018年8月南部チュンボーン県で移動閣議が開催され、本年1月、116事業に約1086億バーツ(約3800億円)の予算が承認されました。インフラ投資も含めば総額2000億バーツ(約7000億円)にも及ぶSEC政策は、南部4県(チュンボーン、ラノン、スラタニ、ナコンシータマラート)を中心にその地域の特性を生かした事業を通じて、地域に根ざした高付加価値な産業創出を目指しています。



(Google Map : 南部4県)

2. 南部経済回廊(SEC)4つの構想とその展望

SEC政策の中心地・タイ南部では、天然ゴムやヤシ等豊富な農業資源と観光資源を有します。SEC政策で打ち出された4つの構想⁽¹⁾のうち「(2)タイ湾側のチュンボーン県からアンダマン海側のラノン県へと抜ける鉄道新線の建設および鉄道終着駅ラノン港の拡張」は、特に日系企業の注目を集めています。ラノン港拡張計画では、バースが2つから3つに増設、水深は8mから18mへと浚渫(しゅんせつ)される予定です。

バンコクやEEC政策地域からラノン港までの鉄道物流ルートが創出されれば、インド、スリランカ、ミャンマー等BIMSTEC諸国との貿易の円滑化が期待できます。さらに、ラノン港からの輸出経路は、レムチャバン港と異なり、混雑地シンガポールや海賊リスクの高いマラッカ海峡を通過しないため、リードタイムの短縮とリスク軽減にも繋がるでしょう。

1 (1)タイ湾とアンダマン海をつなぐ観光やヘルスケア産業の育成、(2)ベンガル湾多分野技術経済協力イニシアチブ(BIMSTEC)諸国向けの貿易の拠点とする「Western Gateway」政策、(3)天然ゴムやヤシを中心とした環境に配慮した農業の促進、(4)生活の質を高めるスマートシティー開発

3. 南部経済回廊(SEC)政策実現に伴う課題

現在、ラノーン県庁では SEC 政策および鉄道・港建設計画実現に向けて、ラノーン港物流ルートに適した輸出入貨物の調査を実施しています。しかしながら、ラノーン港への鉄道敷設には 10 年程度かかる見通しであり、新設予定の 3 つ目のバースの予算についても、今後閣議による了承が必要となります。いずれも完成は 2030 年以降と予想され、その間、政局混迷に伴う経済への打撃や開発資金供給の持続性といった様々なリスクが懸念されます。EEC・SEC 政策以外にも東北部での中国高速鉄道建設、鉄道複線化工事、バンコク市内のスカイトレイン建設など、複数の大規模なインフラプロジェクトが進行中ですが、今後も注意深く情報を入手しながら、タイの高成長戦略の行方を追いたいところです。

【弊社グローバルネットワーク ~弊社代理店のご紹介~】

2018年3月に南部経済回廊とカンボジアからの報告として、ベトナム・カンボジア・タイの国境通関手続き事情や道路状況とボトルネック、SEZ・ドライポートのアクセスや荷役実態の調査を実施しております。本報告書の詳細やタイでの貨物事故につきましては、下記の弊社クレーム代理店、弊社コマーシャル損害部または営業課までご連絡頂けますようお願い致します。

Tokio Marine Insurance (Thailand) Public Company Limited

40th Floor, 1 Empire Tower, South Sathorn Road, Yannawa, Sathorn, Bangkok 10120, Thailand

Tel : (66)2-6868888 ext.1511/1515

Fax : (66)2-6868899

E-mail : tmclaims@tokiomarine.co.th

【出展】

『タイの EEC 開発と中国の一帯一路構想』、日本総研、2018 年 10 月 36 日、<http://www.iri.co.jp/page.jsp?id=33488>

『「タイランド4.0」とは何か(前編)―高成長路線に舵を切るタイ』 環太平洋ビジネス情報 RIM 2017 Vol.17 No.66 2017.

<https://www.iri.co.jp/MediaLibrary/file/report/rim/pdf/10060.pdf>

『「タイランド4.0」とは何か(後編)—ECC(東部経済回廊)開発とその課題—』環太平洋ビジネス情報 RIM 2017 Vol.17 No.67 2017

http://www.iri.co.in/Medical_library/file/report/rim/pdf/10180.pdf

『期待が高まる南部経済回廊(SEC)——タイ湾とアンダマン海の連結を目指す南部のインフラ投資計画(1)』,JETRO 地域・分析レポート, 2019 年 4 月 12 日 <https://www.jetro.go.jp/biz/areareports/2019/388252ad9e171cec.html>

『実現の可能性を探る—タイ運河計画タイ湾とアンダマン海の連結を目指す南部のインフラ投資計画(2)—』,JETRO 地域・分析レポート, 2019 年 4 月 12 日. <https://www.jetro.go.jp/biz/areareports/2019/ebb3825dfed09509.html>

本 Topics に関するお問い合わせ、ご意見、ご感想等ございましたら、弊社営業担当までお寄せください。編集にあたっては万全の注意を行っていますが、本 Topics 情報の正確性を保証するものではなく、これにより生じたいかなる損害に対して弊社は一切の責任を負わないものとします。

船舶・貨物・運送の保険の情報サイト「マリンサイト」

http://www.tokiomarine-nichido.co.jp/hojin/marine_site/index2.html

New! 企業向け事故防止サポートサービス

<https://www.tokiomarine-nichido.co.jp/hojin/jikoboushi/>